衆議院の議員定数削減に反対します

2026 年 11 月 11 日

平和を求め軍拡を許さない女たちの会

衆議院の比例代表の議席を減らす議論が進められています。しかし、何人減らすかを決める前に、そもそも減らす必要があるのか、国民の声が政治に届きにくくならないかを、十分に議論する必要があります。

私たちは、次の理由から議員定数の削減に反対します。

第一に、人口が減るからといって、政治の役割が小さくなるわけではありません。

少子高齢化、医療や介護、物価高、貧困や格差、ジェンダー不平等、そして平和と安全保障など、国会が取り組むべき課題は山積しています。地域や暮らしの現場の声を聴き、政策に反映し、政府の仕事を点検する。それが国会議員の役割です。人口の減少だけを理由に、議員を減らしてよいのでしょうか。

第二に、経費の節約だけで、国民の代表を減らすことは正当化できません。

「議員を減らせば税金の節約になる」という説明は、一見分かりやすく聞こえます。しかし、節約できる金額だけでなく、失われる代表の役割にも目を向ける必要があります。議員が減れば、一人の議員が代表する国民の数は増え、地域や生活の困りごとを丁寧に受け止めることが難しくなります。

税金の無駄をなくすために必要なのは、予算の使い道を厳しく点検することです。その点検を担う国会の力を弱めてはなりません。

第三に、比例代表の削減は、多様な声を国会に届けにくくします。

小選挙区では、一つの選挙区で当選できるのは一人だけです。そのため、当選者以外に投じられた票は、議席に結びつきません。一方、比例代表は、政党の得票に応じて議席を配分し、小選挙区では届きにくい声も国会に届ける仕組みです。

比例代表の議席を減らせば、少数の意見を持つ人々の声が、政治に届きにくくなります。小選挙区で当選した女性は 28 人で、小選挙区の全議席に占める割合は 9.7％です。一方、比例代表で当選した女性は 40 人で、比例代表の全議席の 22.7％を占めています。つま

り、女性が占める割合は、比例代表では小選挙区の 2 倍以上です。また、女性当選者 68 人のうち、約 6 割が比例代表から選ばれています。

このように、比例代表は女性を国会に送り出す重要な役割を果たしています。その議席を減らすことは、女性の声を政治に届ける機会を狭めかねません。

国会では、異なる立場の意見を聴き、十分に議論することが必要です。議事を進めやすくするために、多様な声を減らすことがあってはなりません。

選挙制度を見直すなら、問うべきは「何人減らすか」ではなく、「どうすれば一人ひとりの声が、より確かに政治に届くか」です。

私たちは、平和と民主主義を守り、誰もが政治に参加できる社会をつくる立場から、衆議院の議員定数削減、とりわけ比例代表の定数削減に強く反対します。

以　上